

第3回北海道総合教育会議

大分県玖珠町でのCSの取組

平成27年10月21日

大分県教育センター所長
文部科学省CSマイスター

梶原 敏明

目次

プロローグ

1 コミュニティ・スクール導入の必要性と経緯

- ・コミュニティ・スクール導入の必要性
- ・コミュニティ・スクール導入の経緯


2 コミュニティ・スクールの実践

- ・玖珠中の現状と課題の分析
- ・課題解決に向けた取組
- ・生徒・教職員・家庭・地域の変容

3 画像による実践紹介

- ・教育目標編
- ・学習編
- ・家庭や地域との連携編

エピローグ



プロローグ

大分県西部の**玖珠町**にある コミュニティ・スクールの取り組みです。



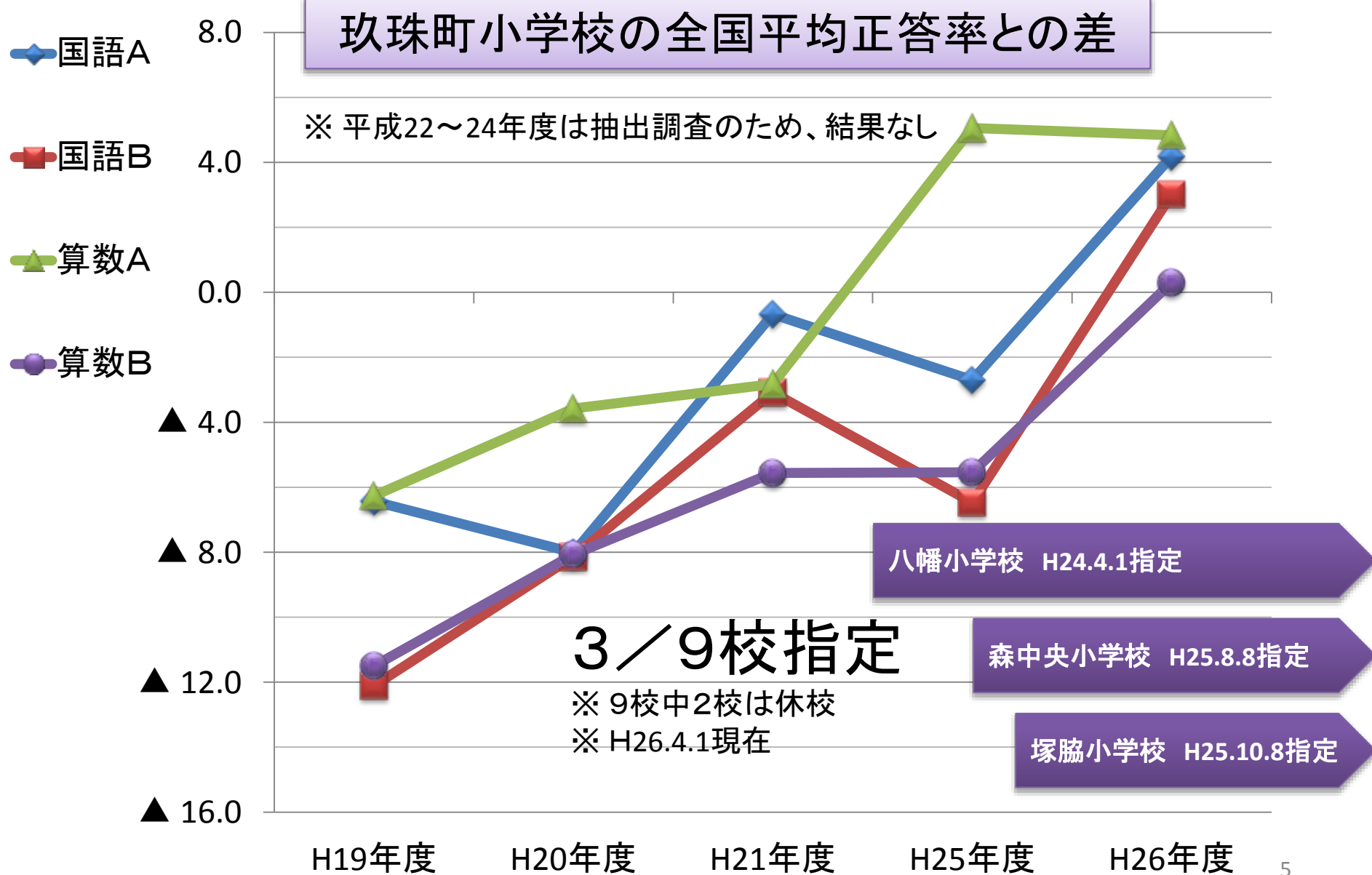
玖珠町

- ・人口 1万7千人超
- ・小学校9校、中学校6校

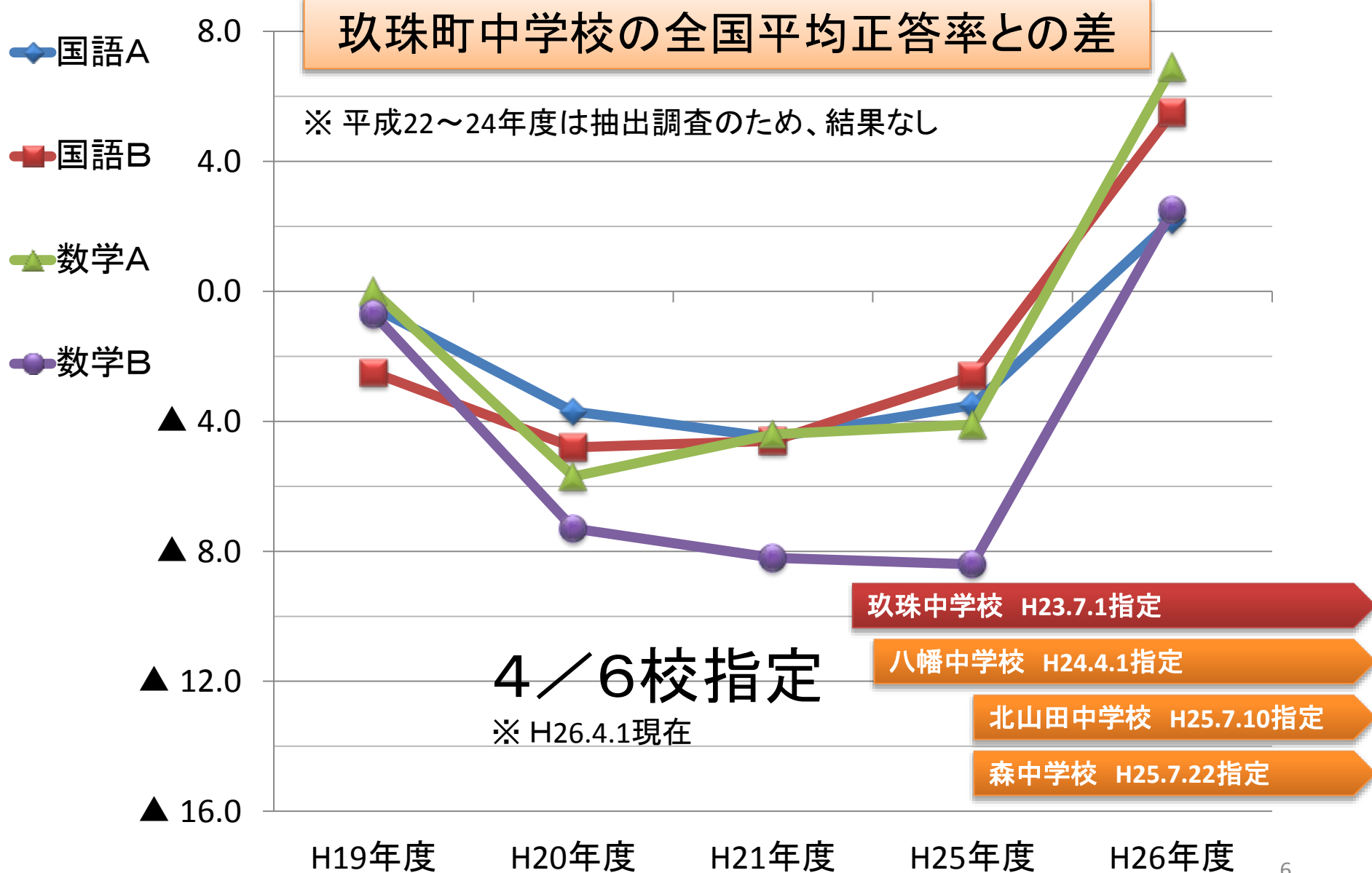



切伐山: 標高685.5m

全国学力・学習状況調査結果とCS指定状況



全国学力・学習状況調査結果とCS指定状況





コミュニティ・スクール導入の 必要性と経緯



コミュニティ・スクール導入の必要性

少子化が教育に及ぼす影響

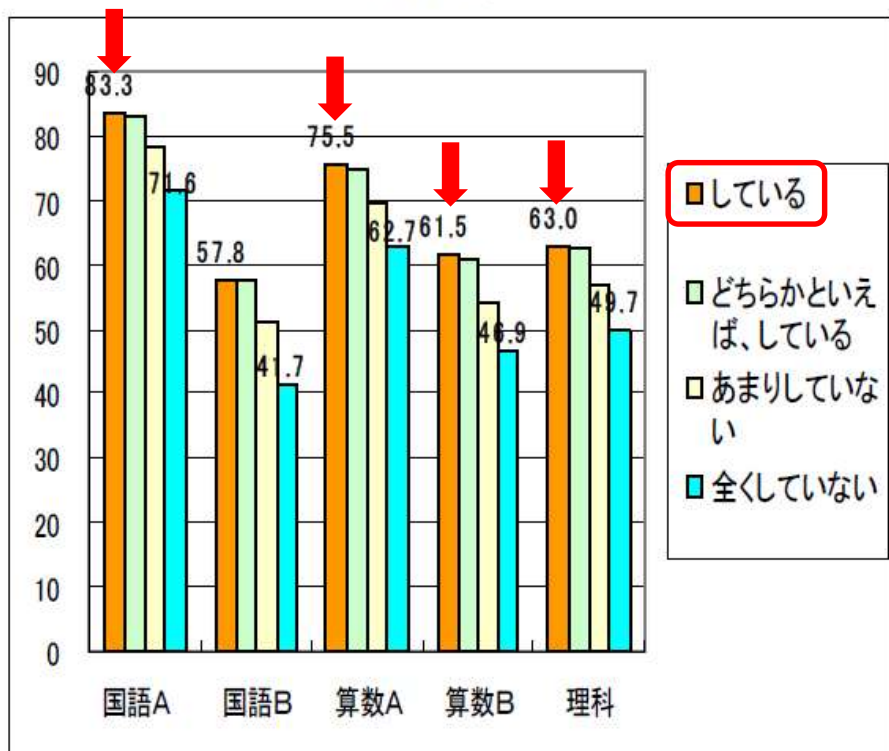


就寝と学力との関係

毎日同じくらいの時間に寝起きしている児童ほど、学力調査の平均正答率が高い傾向。

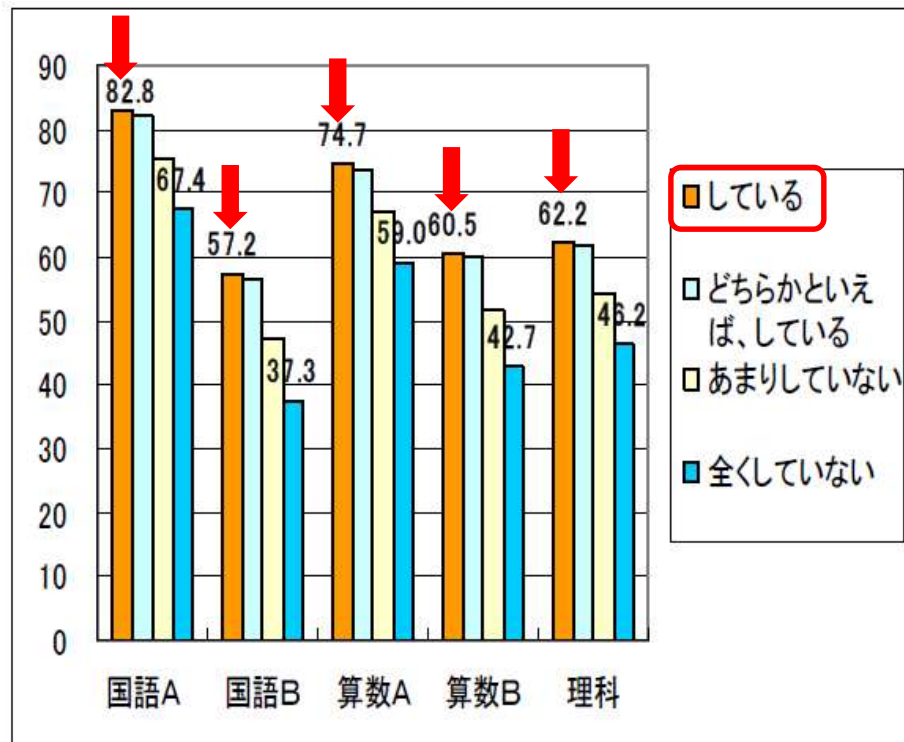
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

<小学6年生>



毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

<小学6年生>

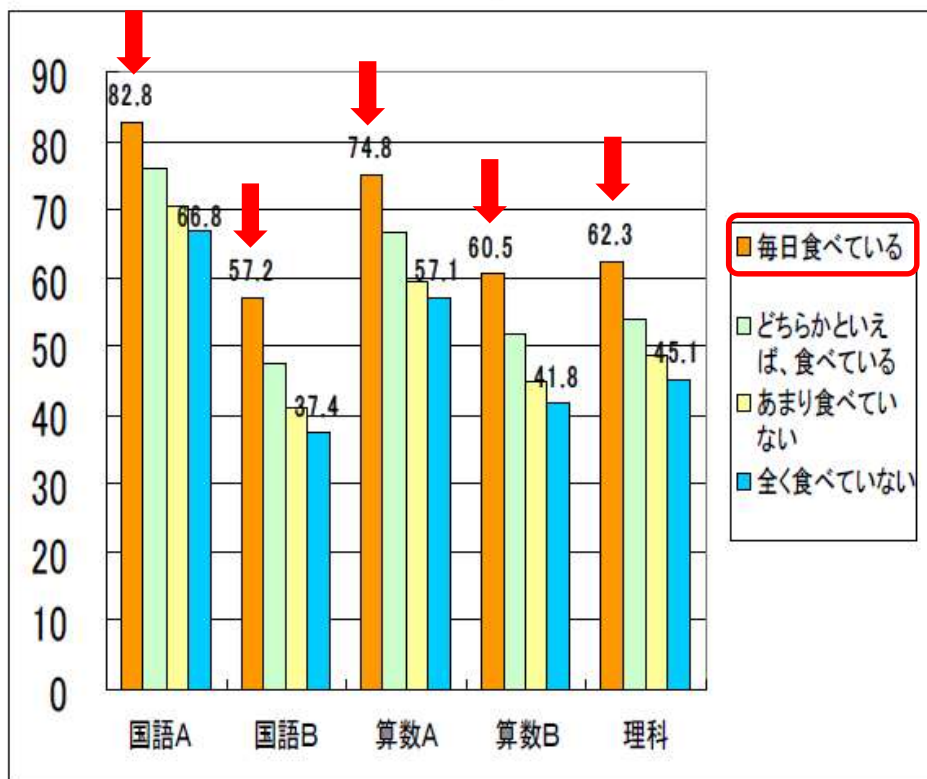


朝食摂取と学力との関係

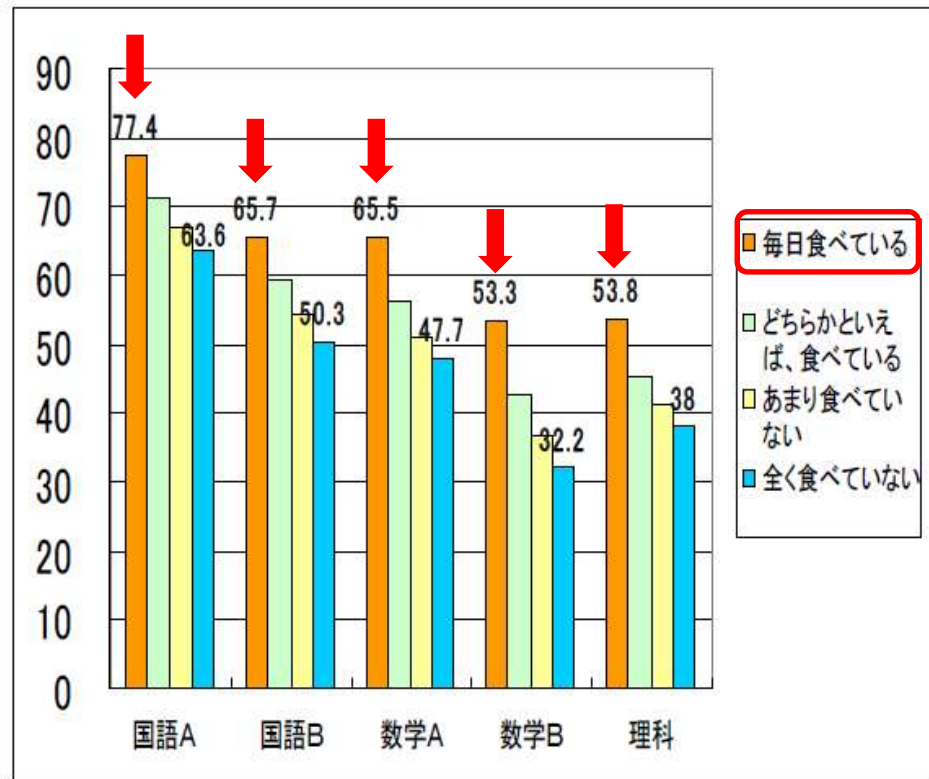
毎日朝食をとる児童生徒ほど、学力調査の得点が高い傾向。

○朝食の摂取と学力調査の平均正答率との関係

<小学6年生>



<中学3年生>



基本的な生活習慣と学力との関係

表2-1 保護者の子どもへの働きかけと子どもの学力の関係

(%)

「とても」と「まあ」の合計	国語			算数		
	A層	D層	差(A-D)	A層	D層	差(A-D)
子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをした 博物館や美術館に連れて行く	80.9	63.0	17.9	79.1	67.4	11.7
ほとんど毎日、子どもに「勉強しなさい」という 毎日子どもに朝食を食べさせている 注1)	51.2	56.9	-5.7	49.5	56.8	-7.3
子どもの勉強をみて教えている	93.2	82.8	10.4	91.0	81.8	9.2
子どもに一日の出来事を聞く	59.7	58.8	0.9	57.4	58.5	-1.1
子どもを決まった時間に寝かすようにしている	87.1	86.0	1.1	88.6	86.1	2.5
ニュースや新聞記事について子どもと話す	85.3	78.9	6.4	83.3	79.0	4.3
家には、本（マンガや雑誌を除く）がたくさんある	75.6	64.8	10.8	73.3	63.8	9.5
子どもがいつもお手伝いをする家事がある	72.6	48.0	24.6	67.3	52.4	14.9
テレビゲームで遊ぶ時間は限定している （「テレビゲームは持っていない」と回答した割合）	58.5	60.1	-1.6	58.2	59.1	-0.9
子どもが英語や外国の文化にふれるよう意識している	63.4	55.3	8.1	62.3	53.0	9.3
子どもにいろいろな体験の機会をつくるよう意識している	9.9	4.0	5.9	9.0	4.2	4.8
以前のように、土曜日も学校で授業をしてほしい	57.7	40.2	17.5	55.4	41.6	13.8
	86.3	81.1	5.2	88.4	79.0	9.4
	59.3	66.4	-7.1	59.8	65.3	-5.5

注1) 「とてもあてはまる」のみ。

注2) 差(A-D)の数値はポイント差を示す。

注3) 網かけは、国語、算数とも8ポイント以上の差があることを示す。

出典: (お茶の水女子大学院) 浜野 隆 准教授
【家庭での環境・生活と子どもの学力】より

基本的生活習慣と学力との関係

表2-2 保護者の普段の行動と子どもの学力の関係

(%)

「よくする」と「時々する」の合計	国語			算数		
	A層	D層	差(A-D)	A層	D層	差(A-D)
本（雑誌や漫画を除く）を読む	70.6	56.9	13.7	69.6	57.6	12.0
携帯電話でゲームをする	7.3	9.4	-2.1	7.4	10.1	-2.7
テレビのニュース番組を見る 注1)	74.1	66.3	7.8	72.5	65.1	7.4
テレビのワイドショーやバラエティ番組を見る 注1)	25.0	35.0	-10.0	25.6	35.1	-9.5
新聞の政治経済欄を読む	60.2	46.4	13.8	55.9	48.4	7.5
スポーツ新聞や女性週刊誌を読む	18.0	28.6	-10.6	21.0	27.6	-6.6
パチンコ・競馬・競輪に行く	1.7	5.7	-4.0	2.8	5.9	-3.1
家で手作りのお菓子をつくる	53.4	45.3	8.1	47.3	45.6	1.7
クラシック音楽のコンサートへ行く	18.2	9.0	9.2	15.3	9.0	6.3
美術館や美術の展覧会へ行く	31.9	17.8	14.1	27.1	17.9	9.2
カラオケに行く	13.5	20.4	-6.9	16.5	23.1	-6.6
政治経済や社会問題に関する情報をインターネットでチェックする	31.2	24.4	6.8	29.2	23.8	5.4
パソコンでメールをする	35.6	23.8	11.8	31.7	26.4	5.3
学校での行事（体育祭・学芸会など）に参加（「ひんぱんにした」の割合）	81.4	74.1	7.3	82.2	72.0	10.2

注1) 「よくする」のみ。

注2) 差(A-D)の数値はポイント差を示す。

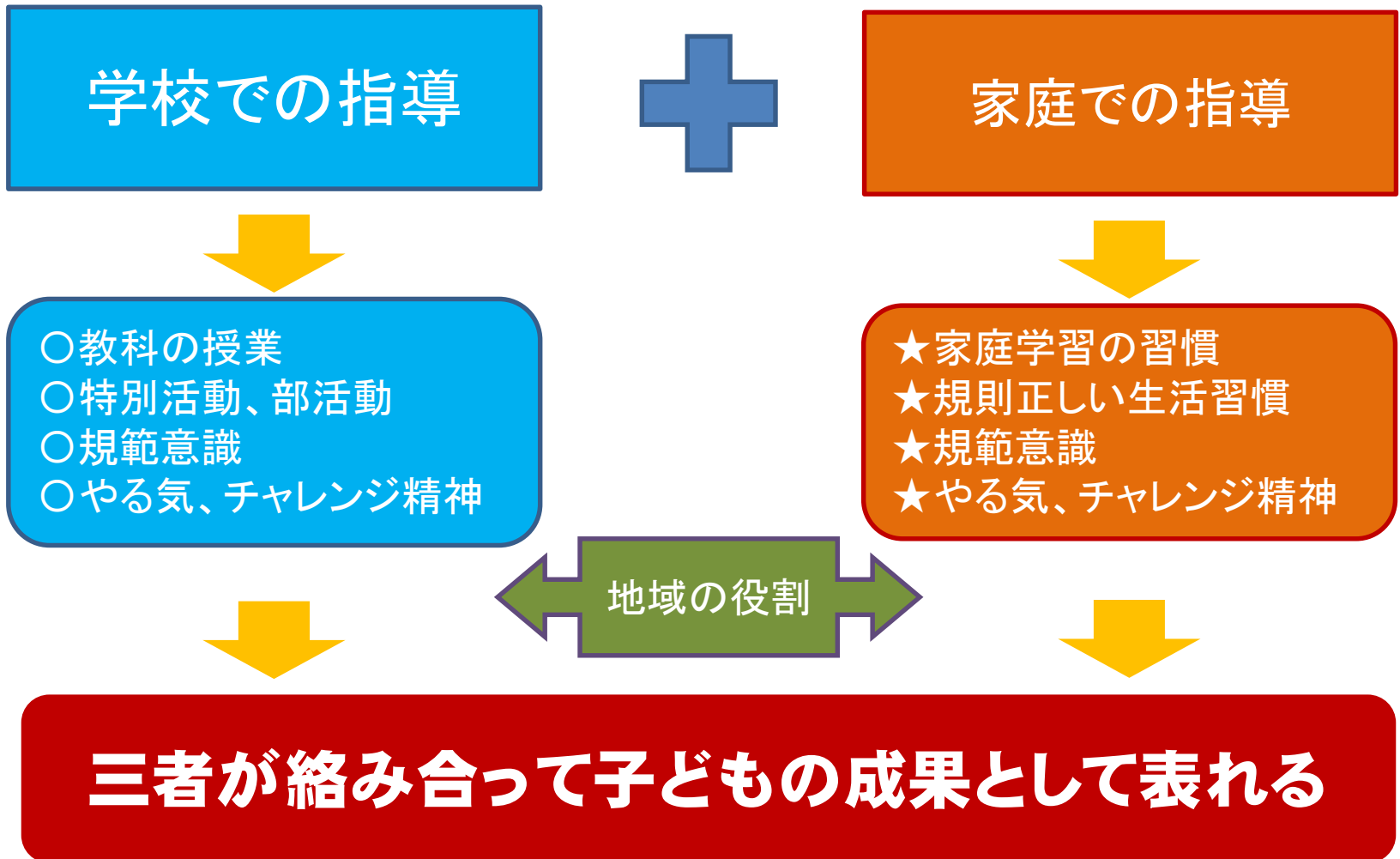
注3) 網かけは、国語、算数とも8ポイント以上の差があることを示す。

出典：(お茶の水女子大学院) 浜野 隆 准教授
【家庭での環境・生活と子どもの学力】より

学校・家庭・地域と協働で子育てしましょう！

- 1 家庭で毎日決まった時間に学習をする習慣
- 2 食事や睡眠時間など基本的な生活習慣の確立
- 3 テレビやゲームに費やす時間の約束
- 4 携帯電話・パソコンの利用の仕方や利用時間の約束
- 5 家庭での読書習慣の徹底
- 6 「心の教育」を通じ、豊かな人間性を付けさせる
- 7 親子で話し合う、ふれあう時間の確保
- 8 社会的なマナーやルールを身に付けさせる

学力問題は学校だけで解決できるか





コミュニティ・スクール導入の経緯

玖珠中がCSを導入した経緯

生徒の問題行動等、生徒指導上の課題

生徒が落ち着いて
いない

学習習慣が
身に付いてない

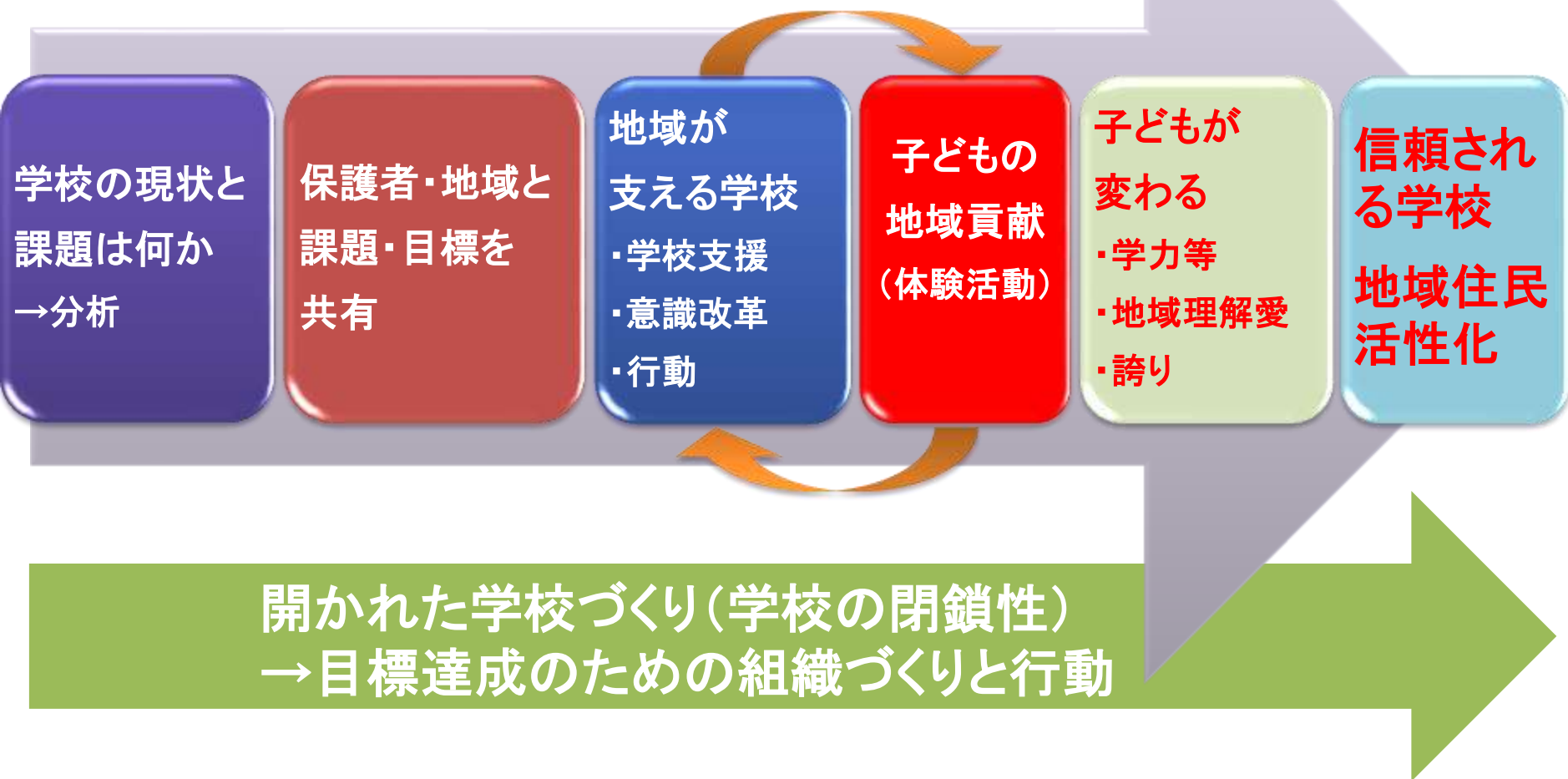
授業態度

家庭学習

教科において基礎・基本が身に付いていない

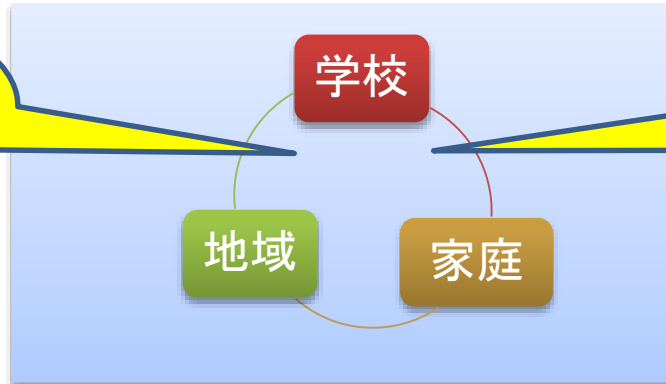
コミュニティ・スクールの実践

CSを活用した教育目標実現への過程



改革の流れ

「共有化」



「見える化」

情報開示・情報共有

- ・ 学校だより
- ・ 学校のホームページ
- ・ 地域の会議への出席

現状・実態分析

- ・ アンケート実施
- ・ 学校評価の活用

具体的な方策

- ・ 目標の共有
- ・ 学校組織改正
- ・ 双方向の交流

“**玖珠中学校のコミュニティ・スクールの特徴**”！！

学校と地域を結びつける手段として

委員の人選

自治会との情報共有

学校運営協議会の会長が自治会の副会長

学校運営協議会 会長



自治会
(玖珠地区コミュニティ運営協議会)
副会長

融合＝協働＝パートナーシップ

学校支援本部
協育コーディネーター

しかけ屋

学校

地域

玖珠地区コミュニティ運営協議会



玖珠中の現状と課題の分析

学校の現状と課題の分析の手段

1 内部環境・・・教職員、生徒の思い

- ① 教職員へのアンケート調査
- ② 生徒へのアンケート調査



2 外部環境・・・保護者や地域住民の思い

- ① 地域の会議等に参加
- ② 保護者や地域へのアンケート調査
- ③ 保護者や地域への情報の提供



ビジョン作成に向けての情報の収集と分析

児童生徒の実態を
把握



保護者や地域の願いを
把握

学校評価の実施

コミュニケーション・ツールとして

生徒の
意識調査
・
評価



保護者の
意向調査
・
評価

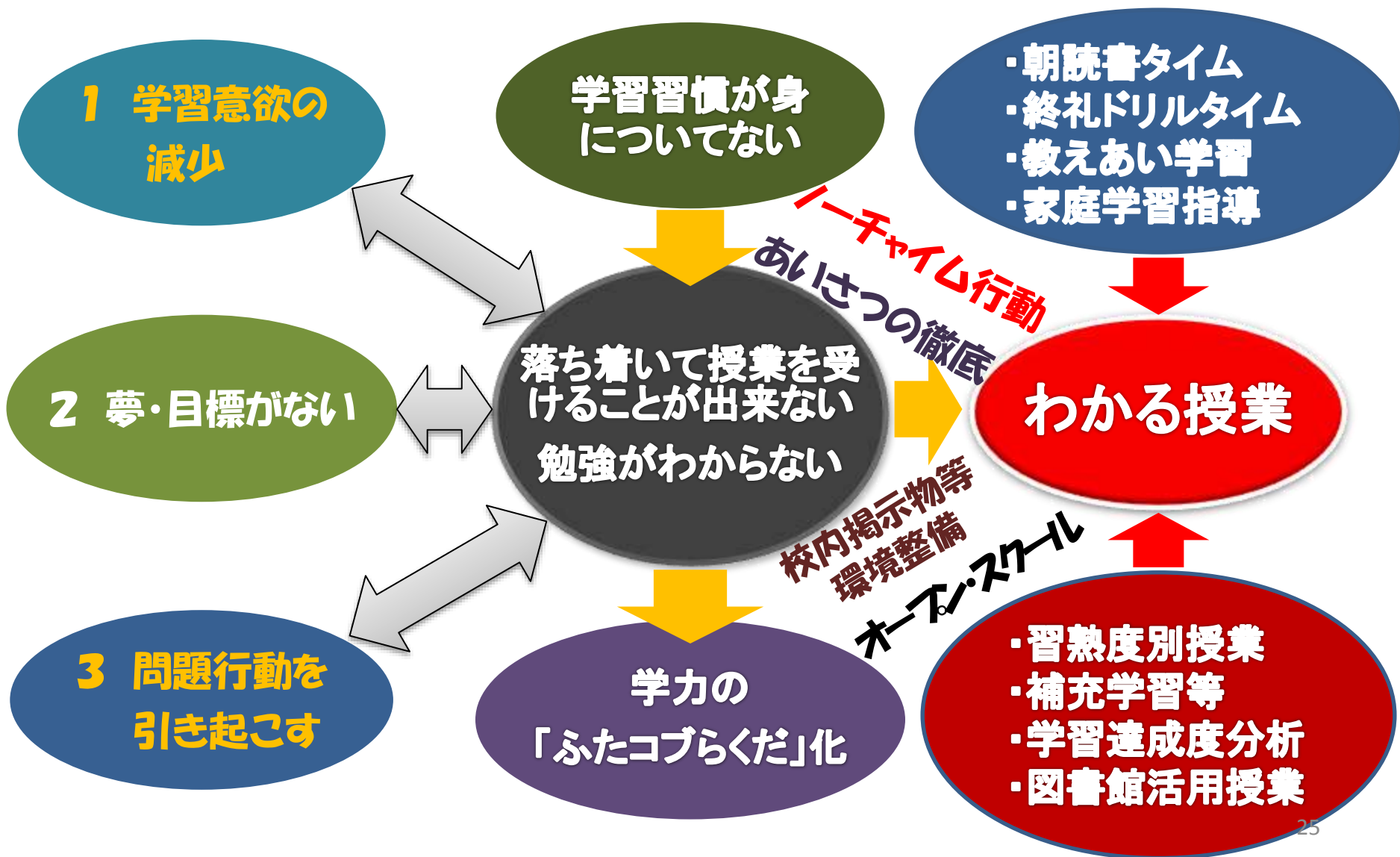


地域の
意向調査
・
評価

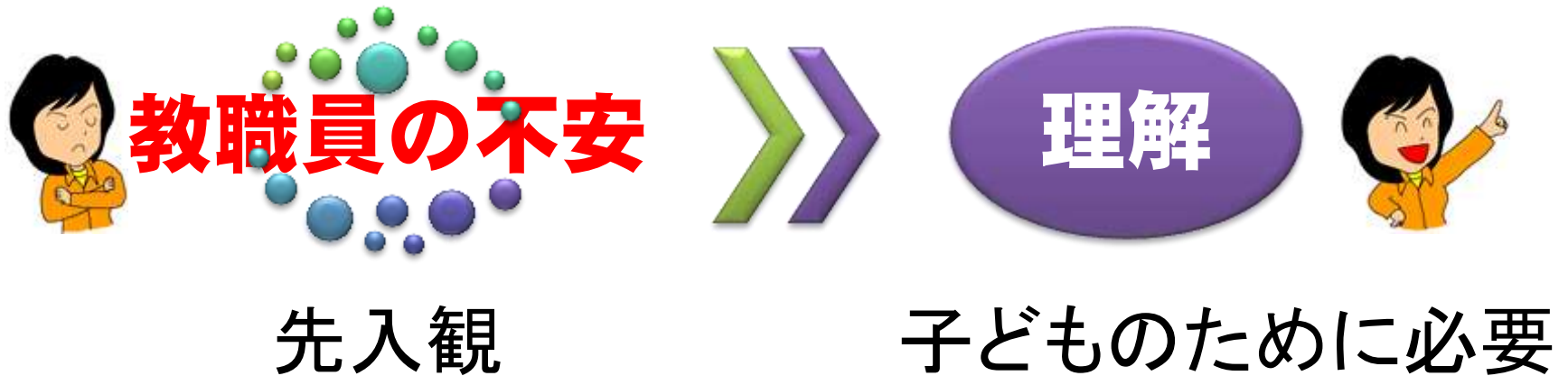


共有する
し、
結果内容を公開

学習規律と生活規律から授業改善



コミュニティ・スクールを導入するにあたって、最初に乗り越えたこと



- * 地域住民や外部が学校教育活動に関わってくると
- ★ 外部との連携は、仕事が増える
- ★ これまでの仕事の流れが壊れる
- ★ 授業参観されることへの抵抗感
- ★ 人事に関する意見

内部環境に関する分析

1 教師の意識の薄さ

- 共通の達成目標を持つ意識の薄さ

- 前例踏襲の意識、検証を行う改善意識の薄さ

- 地域・社会の求めるニーズが見えていない

2 学校組織力の弱さ

- 学校組織としての意識の薄さ

- 保護者や地域のニーズに応える組織的な対応

外部環境（保護者や地域）に関する分析

①学校に対し意見や要望を言うことに遠慮していた。

②学校に協力したいが、その機会がなかった。

③学校と地域の相互の情報交換等の機会がなかった。

④小学校は身近であるが、中学校は敷居が高い。

⑤子の在籍中は学校に関心があったが薄れてきた。



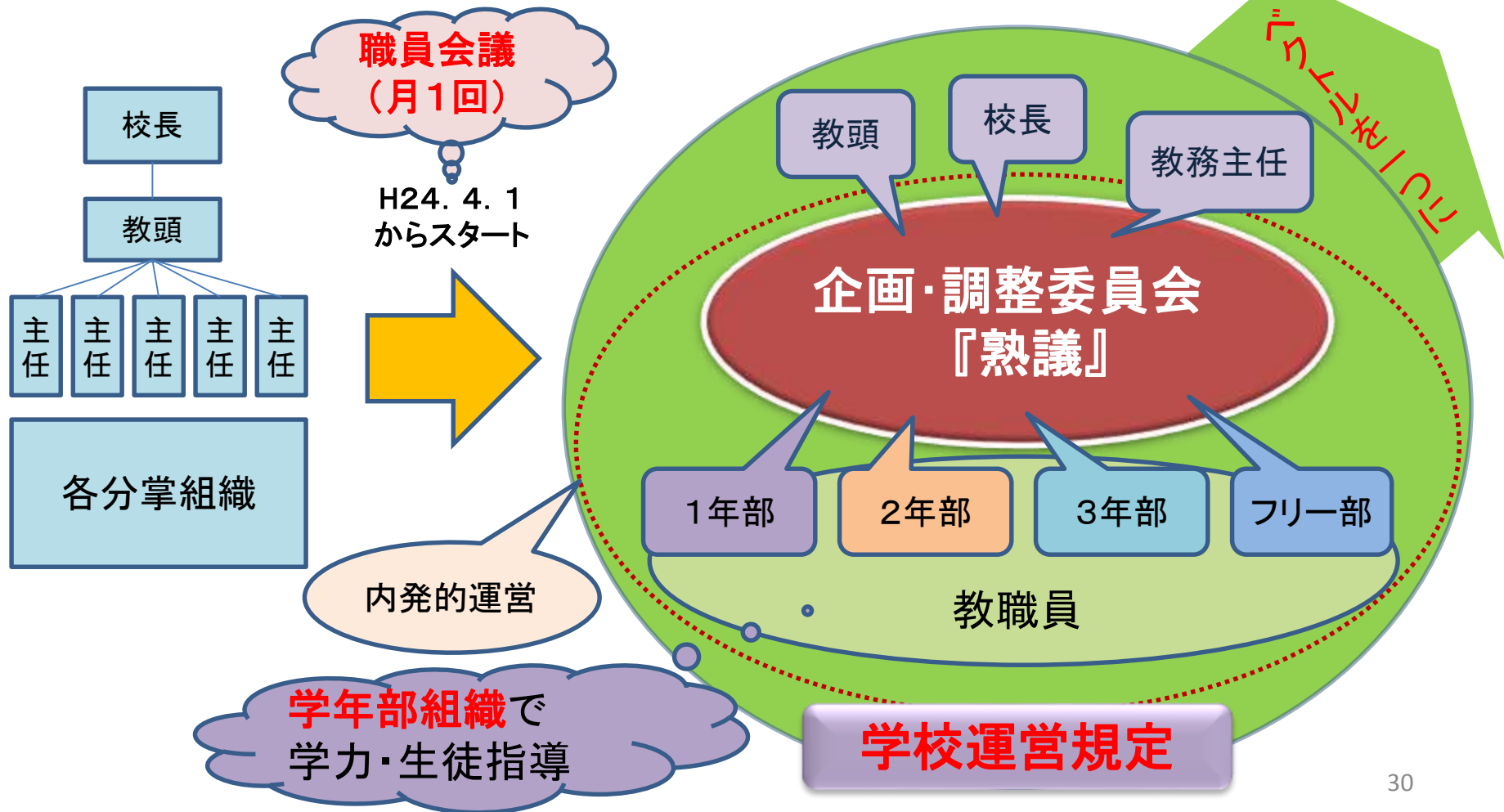
課題解決に向けた取組

教職員の学校運営参画意識を高める

職務型校務分掌組織



課題・目標達成型校務分掌組織



社会の動きや地域を学習活動に生かす



一方向から双方向への関係へと

これから



【ウイン・ウインの関係】

◎保護者や地域の声を受け止めるシステムづくり



◎教職員の意識改革(地域の連携・協働による双方向の関係)

◎学校から積極的に地域の行事などに参加する
地域・社会貢献→地域からの信頼を得る



保護者・地域との関係づくりは、教職員それぞれが鍵を握っている



生徒・教職員・家庭・地域の変容

新聞を活用し、やる気を引き出す

生徒の
活躍を
紹介する



学習に
活用する

新聞を見る「きっかけ」
「関心を持つ」



社会から認められる
→プラスの変化の方程式

意識→意欲→行動
につながる

自尊心の高揚+学力

- 地域の方（保護者）がいつも学校（私たち）を見守ってくれている。

- 地域の行事等に参加することで、地域の一員として認められ期待をもたれ、それを子どもが感じることで、子どもの意識が変わってくる。

～地域の役割～
子どもは地域の一員



～新聞の役割～
子どもの活動を紹介

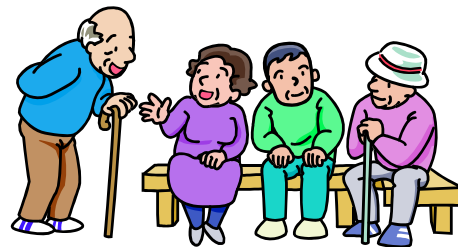
健全な生徒の育成（落ち着いた生活）

保護者や地域の力を生かす

保護者や地域の意向が反映される仕組みが出来た。



地域と学校が相互に
支え合う仕組みづくり



保護者や地域は学校に協力
したいと待っていた→その
チャンスが出来た。

「学校のために役に立っている。」
と達成感・自己満足感・充実感が
得られ、益々協力的なってきた。
＝当事者意識、参画意識、責任
感が芽生えてきた。



学校の課題や目標・ビジョンの共有が大事

☆学校からの情報発信が、地域の信頼をつかむ。

「おやじの会」や地域住民のネットワークにより、様々な職業の専門的スキル(匠)集団が学校を支える組織として活用できるようになった。



保護者や地域はどう変わってきたのか



保護者や地域の意向が反映される仕組みが出来た。

1. 地域と学校が相互に支える組織へと成長(連帯感・成長)
2. 保護者や地域は学校に協力出来るチャンスが来た。
3. 地域住民に達成感、当事者意識、責任感等が芽生えた。
4. 学校を支える専門的スキル(匠)集団を活用できるようになった。

☆学校の「見える化」が、学校の信頼をつかむ。